

# 税理士の ひとりごと

No. 133

武士は食わねど高楊枝

税理士 齋藤明

先日SNSを見ましたら、公認会計士の男性が弁理士の女性といわゆる「男が奢るか論争」みたいなバトルを繰り広げて盛り上がりつつあったのです。キツカケは、その会計士が弁理士を飲みに誘ったところから始まります。その際の会計が6900円。そこでその会計士がレジ前で「3000円で良いよ」と女性に告げたところ、その弁理士は渋々3000円を払ったのだそうです。うですが、どうやらその弁理士からすると納得がいかなかったようで、後日SNSに「男性の方から誘っておいて、割り勘なんて信じられない」と投稿し、それに対して会計士側が「自分の方が多く払っているのに文句を言うな」と反論をしたのです。

その後二人のやり取りはヒートアップし、会計士が腹立ち紛れに、その女性の容姿や年齢のことに言及したりしたものですから、そのSNSは荒れ放題に荒れ、コメントが殺到したという

わけです。

結局、よくよく後から2人のやりとりを見てみると、どうやらそれはあくセス数を稼ぐために仕組まれた炎上商法だったようで非常にバカらしかったのですが、それはそれとして、そのコメント欄に投稿された数々のコメントがツツコミどころ満載で、とても面白かったのです。たとえば、その会計士が普段からお金持ちアピールをしているにも関わらず、なぜ割り勘なんだ？とか、金持ちの男性が女性を飲みに誘う店にしては会計が6900円ってシヨボくないか？とか、900円多く払うだけで「3000円で良いよ」という上から目線の物言いが鼻につくとか、女性の見た目や年齢を理由に足元を見て「高い店で奢る価値もない」と判断したのではないかと、外野はもう言いたい放題なのです。

面白おかしく私はそれらを拝見しながら、その一方でSNSをバズらせる